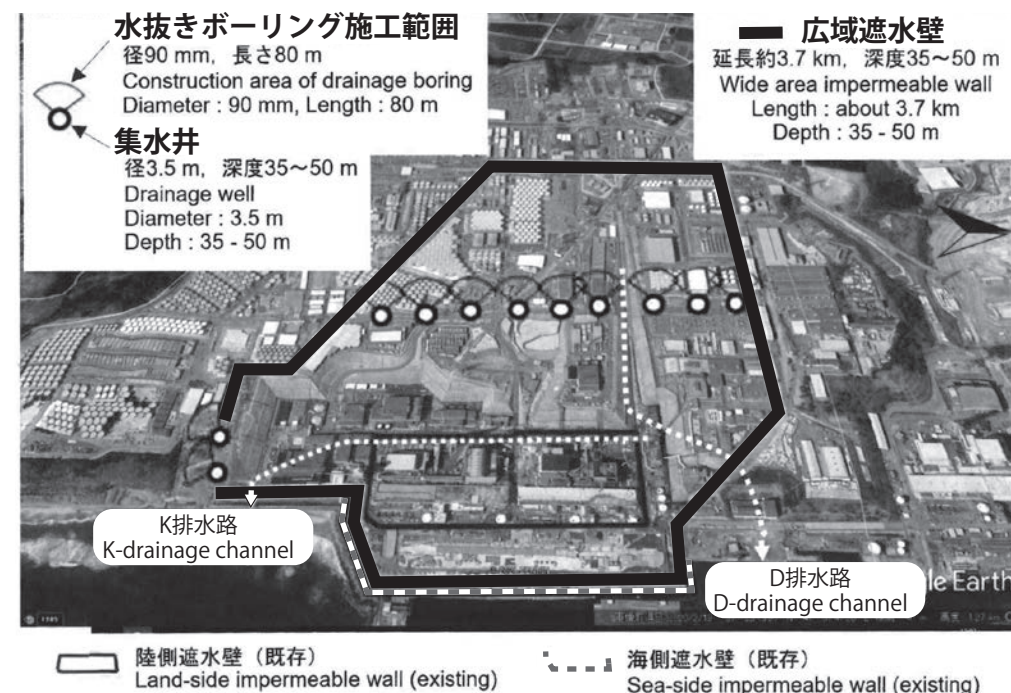


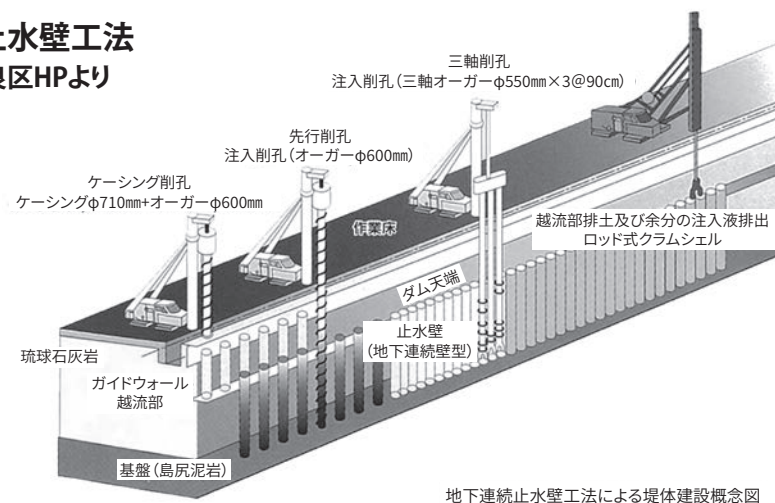
県北農民連2021年9条田んぼ「海に捨てるな汚染水」



地学団体研究会 「福島第一原子力発電所の地質・地下水問題」より



地下連続止水壁工法
宮古土地改良区HPより



行う必要があります。

本研究グループでは福島第一原発敷地内の地質や地下水の実態把握を試みましたが、野外調査の範囲や公表された資料が限定されているため、原発敷地やその周辺において未解明な事項がいくつも残されています。今後確実な汚染水対策を立案・実施していくためには、東電と国がしっかりとした地質調査を行い、第三者が検証したうえで、地下水流動解析と汚染水対策の効果予測を行う必要があります。

国、東電、第三者委員で
調査・対策が必要

内の事業者の実績があります。

おり、効果は限定的です。

集水井も地下水の水位を下げる既存の技術です。福島県内でも西会津の地滑り対策として県内の事業者の実績があります。

地中連続壁は既に国内で実績のある工法で長期の管理ができます。原発周辺を3.7km、深さ35~50m、厚さ90cmのコンクリート壁で囲み、地下水の原発建屋への侵入を防ぐ工事です。コストは凍土壁(約300億円)の半分程度になります。凍土壁は壁をマイナス20度に維持する必要があります。莫大な電力を消費します。耐用年数も7年程度と言われ、現在でもトラブルが発生しています。実際140tの汚染水が毎日発生しており、効果は限定的です。

本研究グループが提案した今後の汚染水対策は、(1)当面10年程度の中期的対策として原発建屋周辺の井戸(サブドレイ)の増強による地下水管理を行う、(2)100年を超える長期対策として在来工法による地中連続壁を用いた広域遮水壁と集水井の設置を行う2点です。汚染水の増加を抑えるためには(2)の抜本的地下水流入対策が必要です。

国と東電は汚染水発生防止の 長期対策をとれ 汚染水海洋放出は中止を

9月11日、ふくしま復興共同センター主催の原発汚染水問題の学習会が開かれました。福島大学の柴崎教授から「福島第一原発の地質と地下水」について講演していただいた要約を掲載します。

原発汚染水対策の現状

柴崎教授が所属する地学団体研究会の有志が集まり、今年7月に「福島第一原子力発電所の地質・地下水問題」が出版され、汚染水対策について提言されました。

福島第一原発事故から10年半が経過した現在も廃炉作業は困難を極め、放射性物質による汚染水問題も解決していません。汚染水はおもに地下水や雨水が原発の燃料デブリに触れて発生します。そのため地下水を原発建屋に近づけないことが重要で、東京電力は地下水バイパスや凍土壁を切り札として設置しました。しかしその効果は「限定的」です。東電や国が進めた対策は地質や地下水の状況をしつかり調査せず「工法・対策ありき」で実施されたため、うまくいっていないと考えられます。

東電・政府任せでは
効果的な対策は打てない

本研究グループによる研究の結果、東電や国が汚染水対策のために使用している地質断面図は単純化されたものであることが判明しました。原発の地質はもつと複雑であり、東電の今の対策では効果的な対策の立案実施や地下水の管理を十分に行うことはできません。

農民連フラッシュ flash

アグロエコロジーへの挑戦

福島市佐原の圃場で不耕起栽培を核とした大豆と小麦の輪作に挑戦しています。11月2日、小麦「ゆきちから」の種まきをしました。「ゆきちから」は高蛋白で、製パン適性に優れているので来年初夏に収穫し、パンやピザに加工してみんなで食べるのが楽しみです。



怒りの軽トラパレード

稲刈り真っ盛りの10月7日、安達地方農民連では「米価暴落、政府は対策を取れ」「過剰米は政府が買い取れ」ののぼり旗を掲げ、20台の軽トラックで本宮市、大玉村、二本松市をパレードしました。最後に「この状況を変えるには政権交代しかない。すべての組合員に声を掛けよう」と会長からの力強い言葉で締めくくりました。



福島農民連の電気購入できます!

福島農民連産直農協で発電している電気を「みんな電力」から購入や応援することができます。再生可能エネルギー100%の電気も選択できます。みんなの選択で地球を冷やしましょう。

<https://minden.co.jp/personal/>



二本松発電所